

平成21年度第1回中原区区民会議課題調査部会会議録

○日 時 平成21年4月24日（金） 午後3時00分～午後5時07分

○場 所 中原区役所4階403会議室

○出席者 大下委員、佐野委員、杉野委員、竹井委員長、内藤委員、村山委員、吉房副部会長
（事務局）小野寺副区長、企画課：齋藤課長、織裳主査、櫻井主査、小木曾主任、
石渡職員

（行政関係者）地域振興課：廣井課長、川添課長補佐

○傍 聴 なし

○報 道 なし

○次 第

1 開会

2 会議録確認委員の選任

⇒内藤委員を選任

3 議題

（1）第4回中原区区民会議の振り返り

（2）課題解決に向けた取り組み等について

○ 事務局：資料1、参考資料1に基づき説明

○ 地域振興課：参考資料2に基づき説明

○ 村山委員：参考資料3に基づき説明

⇒質疑なし

（主な意見）

- ・ 昔はよかったと言われるが、昔だけが良かった訳でもないと思う。生活の利便性は上がったが、人と家族の触れ合いは少なくなっている。そのような状況を受けて「地域コミュニティ」がテーマとして取り上げられた。コミュニティの必要性を問われると阪神淡路大震災の際に、コミュニティ活動が盛んな地区は、より良い災害対策ができたといわれている。また、単に仲良しグループが出来たら良いという考え方もある。コミュニティにより何ができるかということを考えなくてはならない。また、区民会議として何が出来るのか、行政として何が出来るのか考える必要がある。（竹井部会長）
- ・ コミュニティ活動とは、将棋、カラオケ、お祭り、防犯活動など小さいものから大きいものまで様々ある。私の地元では、旧県立川崎高等職業技術校跡地のグランウド等について、地元でも意見がまとまらず問題となっている。小さいものを応援する必要もあるが、私は区民会議として、もっとレベルの高いものを考える必要があると考えている。例えば、新住民を迎えている小杉の周辺でお祭り広場のような人が集まれる場所をつくるとか、中原が持っている「多摩川」という大きな自然を活

かして区民の憩いの場をつくるとか、区民会議として高いレベルの提言が出来たら良いと考えている。(内藤委員)

- ・ 子どもを育て、PTA活動等に参加するようになり様々な情報を得られるようになった。子どもが乳幼児の際には、参加したくても出来ない時代もあった。子育てをする中で、孤独になるのは誰もが嫌であり、同じような立場の人達が助け合っていくような関係をつくるのが大切である。困難に直面した際に誰に相談したら良いか分からない。できれば、子育て世代にもっと耳を傾けて対応してもらえる制度が欲しい。また、昔は、自由に野球やサッカーなどができるところがあったが、子ども達が遊べる場が少ないと思う。(大下委員)
- ・ PTA活動、子ども会活動を経験してきている。コミュニティを考える際には、小さな家庭内のコミュニティと大きなコミュニティの両方を考える必要がある。個人でできることを積み上げながら、徐々にレベルを上げながら、コミュニティづくりをしていくのがよいと考えている。再開発のマンションでは、横のつながりが無い。管理組合には加入しているが、それだけでは足りない。マンションに住む新住民には、中原市民館の催し物等の情報も伝わりにくい状況である。住民は情報を欲しがっており、行政としてどう伝えていくのか、またサポートしていけるのか、我々市民がどのようなつながりでやっていくのか考える必要がある。今年度、私は中原市民館で「地域コミュニティ」関連の講座を担当するが、「地域コミュニティをどうしようか」という直接的なテーマでは、人は集まりにくい。興味を持ちやすくするため、初回の講座は具体的に「防災」をテーマに募集をすることとした。コミュニティの定義は広いと感じている。上丸子小学校のコミュニティスクール設立にあたっては、委員の1人として参画している。具体的な手法としては、イベントを計画してコミュニティづくりを促進するつもりである。(佐野委員)
- ・ 民生委員の活動を楽しんでいる。コミュニティ活動を考えるにあたり、中原区という大きな視点でみることも大切であるが、自分の家の「向こう3軒両隣」という「近所づきあい」が基本的に大切であると思う。自分の住んでいるところの環境が良くないと家庭は幸せにならないと考えている。今、社会福祉協議会では、ボランティアを増やそうという取り組みをしている。町内会をはじめ地域の活動に参加するなかで身近な地域を良くしていかないといけないと感じている。地域活動のスタートは町会になると考えている。災害等が発生したときも、自分の身の周りの人がいかに助け合っていくかが重要となる。町会という単位により、一定の共通認識や体制をつくることによって、それだけで災害等の発生したときの対応は違ってくると思っている。「自分さえよければいい」というような考えはよくない。近所の支えあいをもう一度考え直さないといけないと考えている。身近なところから話し合って何かひとつでも出来たら良いと思っている。(杉野委員)
- ・ 中原区は、古いまちだが、新しい住民も暖かく迎える傾向があると感じている。小杉の再開発マンションでは、昨年8月に、NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントとマンションに入居した新住民とで実施した夏祭りは、予想を上回る1,200名の来場者があった。ボランティア活動には、「人」「物」「金」が必要である。NPO活

動では、たいていそれらが不足している。しかし、夏祭りは、14万円程度の経費負担で実施することができた。お祭りやイベントは、コミュニティの形成に効果的であると思う。いろいろな試みをしているが、マンション住民全てが賛同をするものはなかった。いろいろな考えを持った方がいるので、慌てずにコミュニティ形成をしていけばよいと考えている。マンションの住民には優秀な方も沢山いるので、地域の活動にボランティアとして引っ張り出したいと考えている。また、定年後の高齢者もいる。そのような方がボランティア活動に参加した際には、商店街で安く物が買えるような特典を与えられたら、協力をしてもらえやすくなると考えている。(村山委員)

- ・ 区民会議では、環境や放置自転車問題などいろいろな問題を取り扱ってきた。問題に対して、一部の委員は取り組んでいるが、委員全員が問題に携わっていないことも事実である。区民会議の生命線は、区民会議で発議したことを全員でやりきることが重要である。テーマを区民会議全員で取り組むことで、それが一つのコミュニティになると考えている。町内会は、地域によって性格や機能の仕方が違う。コミュニティという言葉は新しいが、井戸端会議など昔からコミュニティ活動は行われていたと考えている。コミュニティは、最近はハードで取り組もうとするとうまくいかない。ソフト面から取り組むとうまくいっている。人間は、出会いが肝心であり、初めて出会う機会をつくることが大切である。コミュニティは大から小まで様々で、区民が立ち上げたものは区民でやり、行政はそれをサポートするくらいでいいと考えている。自分の町会で神奈川カウンセリング研究会による「おしゃべりの会」が実施されている。病気や家庭など色々なことを話し合っていく中で、一つのテーマを選び集中的に話し合いをしている。それが繰り返し行われている。非常によいコミュニティができていると考えている。そのような活動が、中原区全体に広がれば、素晴らしいコミュニティが出来ると思っている。また、拠点が少ないのは事実である。だが、多摩川でも、グラウンドでもコミュニティの拠点となりうる。コミュニティづくりで、ハード面にこだわると実現が難しくなると思う。区役所が協力してくれたペットボトルキャップの回収も、コミュニティ活動の1つである。簡単なことでもコミュニティ活動となり、地域に広がることでコミュニティが形成できる。(吉房副部長)
- ・ 委員からの意見をまとめると、内藤委員からは、「場や広場が欲しい。」などの意見がありました。大下委員からは、「困っている人が助け合える仕組みがあるといい。」、「子どもの遊べる場が少ない。」などの意見がありました。佐野委員からは、「コミュニティをつくるには、イベントを実施するのがいいのではないか。」などの意見がありました。杉野委員からは、「向こう3軒、両隣の考えで、身近なところからコミュニティづくりをするべきだ。」、「民生委員などの活動事例とともに、人々に良識があればうまく行く。」などの意見がありました。村山委員からは、「慌てる必要はない。じっくりとコミュニティづくりに取り組むべきだ。」、「若い方やシニアの方の力を活用するシステムづくりをするべきだ。」、「夏祭りなどのイベントは、コミュニティづくりに効果的であり、そのシステムづくりが必要である。」などの意見がありま

した。吉房副部長からは、「人々が何でも話し合える関係が重要であり、神奈川カウンセリングの活動が効果的に機能している。」などの意見がありました。(竹井部会長)

- ・ 主任児童委員を12年間務めてきた。また、PTA活動の一環から、毎週月曜日に学校の校門に立ち、子ども達の見守りをしてきた。その中で、コミュニティ力の強化として、「お金」「場」「人材」もない状況で今すぐ出来ると思えることは、「挨拶をすること」ではないかと思う。「挨拶」は、コミュニティをつくる第一歩となると思う。新しいマンションでも、知っている人も知らない人も挨拶を交わしていることに驚いている。「挨拶」はコミュニティづくりの第一歩である。イベントはコミュニティづくりのきっかけとしては有効と思うので、区民会議として一つイベントを実施したらどうか。(佐野委員)
- ・ 「挨拶すること」は絶対に必要である。挨拶は、コミュニティづくりの原点である。最近、人間関係が希薄となってしまい挨拶もしなくなってしまった。(吉房副部長)
- ・ 次の世代の子ども達に、良い中原を残したいと思い、区民会議に参加している。今、再開発による人口増などの理由により、小杉が変わろうとしている途上である。「旧県立川崎高等職業技術校のグラウンド閉鎖により、野球、サッカーなどをする場所がなくなる。」など、現実には不満を持たれている方が、私のところにも相談に来る。区民会議として、自分の足元を見つめる活動も大事であるが、これだけの委員が区民会議に集まっていることを考えると、ハード面の整備なども区民会議の課題として設定するべきと考えている。区民会議は、20万人を超える区民の代表として何かできるのではないかと考えている。(内藤委員)
- ・ 区民会議は、地域の課題を地域で解決することを目的に実施している。旧県立川崎高等職業技術校跡地問題などは、市議会にも陳情が提出され、市全体の問題として検討されている。区民会議は、区の地域的な課題や身近な問題の解決を図るための方針、方策を調査審議することを目的に設置されている。課題としては、区民会議で審議することにより具体的解決の方策が見出せるものが適切であると考えている。ハード面の整備などは、調査審議事項として馴染まないのではないかと考えているので、皆様の審議の参考に付け加えさせていただく。(企画課長)
- ・ 高津区区民会議では、区民会議の審議から、マンション開発業者に保育所設置の要望書を提出していると聞いている。市議会でも審議しているから、区民会議で審議できないものでもないと考えている。後は部会として論議し、区民会議全体として判断すればよいのではないかと。(竹井部会長)
- ・ 子どもの遊び場が少ないのは事実である。私の町会の野球部も多摩川まで、監督や保護者等が子ども達に付き添っていきながら活動をしている。これも一つのコミュニティだと考えている。(吉房副部長)
- ・ 子どもの遊び場が少ない。子どもの遊び場を残して欲しい。(内藤委員)

資料1

- ・ 本日皆さんからいろいろなご意見をいただきましたので、これを正副部会長でとりまとめさせていただくということで、よろしいでしょうか。（竹井部会長）

⇒異議なし

(3) 課題解決に向けた取り組み等について

- 竹井部会長：資料2、参考資料4、5に基づき説明

⇒質疑なし

(主な意見)

- ・ 区内の中学校でも環境問題に取り組んでいる。活動のモチベーションをあげるためにも組織づくりは良いのではないか。（内藤委員）
- ・ 特に反対がなければ、運営部会にあげさせていただくということで、よろしいでしょうか。（竹井部会長）

⇒異議なし

—午後5時07分 終了—

要約のみ